

# PRESS RELEASE

2019年 年頭所感

森トラスト株式会社 代表取締役社長 伊達 美和子

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、都内の大規模再開発が一層活発化し、訪日外国人客数が史上初めて3,000万人を突破するなど、不動産・観光業界が引き続き好調に推移する中で、森トラストグループとしては、東京五輪後を見据え、各事業における戦略を力強く推進してまいりました。

不動産事業では、「東京ワールドゲート」が2020年の完成に向けて順調に進捗するとともに、国家戦略特区に認定された「(仮称)赤坂二丁目プロジェクト」(2024年度竣工予定)の計画の具体化を進めています。また、港区・神谷町エリアでは街づくりビジョンとして、『神谷町 God Valley ビジョン』を策定し、クリエイティビティを高める多彩な空間構築を推進するとともに、コミュニティ活動やエリアイベントにより、引き続き共創・共栄の持続可能な街づくりを進めてまいります。

ホテル&リゾート事業では、沖縄県伊良部島と長野県白馬村でポテンシャルの高い観光資源を活かした外資系インターナショナルブランドホテルを開業しました。現在、都心で3件、地方で16件、合計19件の新規ホテルプロジェクトを推進しており、『ラグジュアリー・ディステイネーション・ネットワーク』構想の下、インバウンド需要の受け皿拡大や、回遊による長期滞在を促す仕組みづくりを推進し、訪日外国人客の旅行消費単価の向上にも寄与しながら、更なる日本の観光先進国化に貢献してまいります。

投資事業では、総額200億円の投資枠を設定している『新イノベーション投資戦略』の下、イノベティブなビジネスを行う企業4社への出資、スタートアップ企業との共創や、新サービス導入に向けた実証実験の実施など、未来を見据えた新たな価値創出を推進しています。

オリンピックを目前に控える2019年は、今後、激変する社会環境を見据え、足場固めの年であると捉えています。着実に事業を推進するとともに、持続可能性、オープンイノベーション、スマートテクノロジー、ウェルネスといった将来性を加味しながら、固定概念にとらわれず多様な機会を創造していくことで、経済発展と社会的課題の解決を両立する「Society5.0」の実現に貢献してまいります。引き続き、コーポレートスローガン『Create the Future』を旗印に、2030年より先の未来を見据え、時代の変化に適応した柔軟な発想とアプローチで、「新しいわくわくするような未来の創造」を目指してまいります。

以上